

大田っ子だより R6. 12. 10 文責 校長

「地域を守るために、自分に何ができるか」

11月28日(木)、4年生の総合的な学習の“地域のこと・環境のこと”を学ぶ時間に立ち会いました。講師は、地域で畜産や米作りを生業にされている安東勇次さんでした。安東さんは、日頃から米作りを中心にお世話になっており、子どもたちにとって身近な存在です。

子どもたちは、事前に安東さんに聞きたいことを出し合い、この日は出された項目について質問し、安東さんが答える形で授業が進んでいきました。

一部紹介いたします。

・畜産を始めるきっかけは？

父親が大工で、あとを継ぎたいと思っていましたが、受け継いでいる土地を自分が守らないといけないと思い、農業をすることにしました。そして、農業を学べる高校に進学しました。

・なぜ、牛を飼い始めたのか？

牛の目がかわいいからです。そして、牛は高く売れていたため、生活するために牛を飼いました。

・畜産の経営はどうか？

昔は牛が高く売れていましたが、今は高く売れなくなりました。飼料代も高くなりました。やめたいけど、やめると生活ができないので、やめることはできません。

・牛の暑さ対策は？

木を植えています。川が流れているため、冷たい風が吹きます。また、子牛用の扇風機もつけています。

・米を作るための機械は、どんなものがあるか？

「トラクター、田植え機、コンバイン、粃すり機、フォークリフト、・・・」全部購入すると、かなりの額になります。

・米を作るのに一番重要なことは？

”愛情と” ”水管理” です。

私も、子どもたちと一緒に話を聞かせていただきました。畜産業では、飼料の高騰とともに牛の価格の下落が見られるとのこと。米作りにおいては、収穫が天候に左右されることもありますから、収入にも大いに影響することでしょう。設備投資もかなりの額が必要だとお聞きしました。そのような中でも、家族が生活していくために、これまで必死に頑張ってきた安東さんのご苦労が、お話の中からひしひしと伝わってまいりました。

授業の最後に、「自分は、地域を守っていかなければならない」「地域を守るために、何ができるかということを考えている」「自分が犠牲になってもいいから、次の人が困らないようにしたい。みんながよくなれば、自分のこともよくなる」と、熱く語る安東さんの一言一言が胸に染み入りました。地域へ



の深い愛情とともに、安東さんのやさしさが滲み出ていたお話でした。

安東さんの地域への思いを知り、子どもたちも自分なりに“地域のために自分は何かができるか”を問い、考えるきっかけになったことでしょう。

～自分の考えを広げ、深められるように～

11月29日(金)、6年生が、修学旅行で共に過ごした、立石小6年生とリモートでつなぎ、「一番大事なものを」を題材に、伝え合い、考えを広げ深め合う合同学習を行いました。普段は5名での学習ですが、立石小の2名が加わり、計7名での学習となりました。

子どもたちは、事前に、“自分が一番大事だと思うもの”をワークシートにまとめており、この日は、理由とともに発表し合います。

教室では、大きなテレビ画面に、立石小のお友達が映っています。同様に、立石小のテレビには、本校の6年生の姿が映っています。本校の6年担任が主指導をする形で、『自分の一番大事なものを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしよう』と、この時間のめあてをみんなで確認し、テレビ画面を通しての合同学習が始まりました。

「私の大事なものは、友達です。友達がいると、遊ぶときに一緒に笑って遊べるからです。また、笑顔が増えて、友達との思い出をつくることができるからです」と、一人の子が発表しました。これに対し、他の子が「どんな時に笑顔になりますか」と、質問を投げかけます。その質問に対し、発表者が、「友達と一緒ににおにごっこで遊ぶ時に笑顔になります」と再び伝え、発表者の思いをみんなで共有していきます。

大田小の子どもたちは、“友達”“飼っているペット”を大事なものに挙げていました。一方、立石小の子どもたちは、“家族”を挙げていました。本校の子どもたちは、立石小との交流があったことで、“家族”という友達の思いにも触れ、あまりにも身近で無自覚な存在となりがちな「家族は当然」との思いを意識し直したかのようで、“一番”の言葉の意味を、子どもたちなりに深めたとも言えます。

小規模校である本校は、手厚い支援が行き届きやすいというよさがある一方で、子どもたちが多様な考えに触れる機会が少ないという小規模校ならではの課題も持ち合わせています。共に学習する人数が増えれば、その分多様な考えに触れ、自分の考えをより広げ、深められる機会が多くなっていきます。

本校の課題を解決すべく、今後、他校の協力を得ながら、今回のようなリモート等を活用した合同学習を進めていければと思っています。

